

ヘリコプターと山小屋物資輸送

スイス国内「有人山小屋」の約9割がヘリコプター依存

毎月、業界に関連するトピックを提供する本書ですが、11月は160年以上の歴史を有するスイスの山小屋とヘリコプターの物資輸送等についてご紹介します。

■ 153カ所以上あるスイスの山小屋の歴史

スイス国民の約25%は国土の約70%を構成する山岳地帯に居住し、アルプス山脈は国土の約58%を構成しています（スイス連邦環境局）。こうした背景から、スイスの山小屋は、観光客だけでなく地域住民や労働者にとっても必要不可欠な施設で、過酷な山岳地帯での天候の急変や移動の困難さに対応する避難所としても機能しています。また、スイス国内にある153カ所以上の山小屋は約16万人の会員により支えられているスイス・アルパイン・クラブ（SAC）が所有・管理しており、山小屋建設や整備・改修支援等の役割を担っています。SACが管理する山小屋の宿泊数は2018年に34万3,000件に達し、欧州内外からの需要が堅調にある為、宿泊者



（出所）Shutterstock, Inc.

が自然環境への負荷を低減する為、インフラの近代化が重要になっており、山小屋のインフラ整備に係る物資輸送や緊急対応等、その多くをヘリコプターに依存しています。

スイス国内の有人山小屋120カ所（2024年8月）
90%以上がヘリコプターの物資輸送に依存



（出所）Are helicopters essential for supplying Swiss mountain huts? (SWI swissinfo.ch) & Shutterstock, Inc.

■ 山小屋のヘリコプター依存度は90%

SACによれば、120カ所の有人山小屋のうち約90～95%が、食料、飲料、清掃用品からガスボンベ、建築資材に至るまで、山小屋維持に必要な物資の多くをヘリコプターに依存しているとしています。また、153カ所以上の山小屋は高度1,475～4,003メートルにある為、交通インフラが整備されておらず、滑走路が必要な固定翼機やドローンによる物資輸送では限界がある為、高高度下で1トン級の運搬能力を有するヘリコプターが最も適した輸送手段であり、山小屋の多くがヘリコプターに依存しています。

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高いリース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。